

令和3年度 農地中間管理事業評価票

山口県農地中間管理事業評価委員会

評価値 A：適正である、順調である B：ほぼ適正である、ほぼ順調である C：取り組み強化、改善を要する

区分	評価項目	評価値			特記事項	
		A	B	C		
1 事業実績	(1)集積実績	1			年間の集積(転貸)603ha 優良事例2件	
			3		平成26年～令和3年の8年間平均転貸867ha(6,936/8=867ha) 令和3年 603/867=69.5% 前年より増加している。	
				1	転貸面積が4年ぶりに増加(目標達成率:26.4%) 過去4年間では最多 603/2280≒26% 目標面積の見直しができればよいと思うが、難しいようである。	
	(2)出し手への対応	1			周知方法の改善により、貸出希望農地の登録面積が増加	
			4		8年間の合計面積6,664haと直近3年間の推移 令和元年595/6,664=8.92% 令和2年557/6,664=8.35% 令和3年453/6,664=6.79% JAの全組合員に広報された。 533haの貸出希望農地登録	
	(3)受け手への対応	1			借受希望登録経営体数が増加	
			4		受け手として誰が対象になっているのかよく分からない。公募等に応じたものだけなのかかわかるとよい。 8年間の個人転貸平均1,236/6,936=17.8% 令和元年19.5% 令和2年26.6% 令和3年192/603=31.8%と個人転貸割合比率が上昇 例年並みの実績	
	(4)マッチング		4		例えば貸し出し希望が全て「田」で、借り受け希望地が「畑」の場合は、それ以上対処しないのか、あるいは何らかの対処をするのかかわかるとよい。 出し手と受け手、面積比をみると順調 貸付経営体数は昨年度と同水準。貸付割合(経営体数比)は昨年度の70.9%から約50%に低下	
			1	例年並みの実績		
2 事業実施方法	(1)事業推進体制	2			情報体制等積極的対応 農地集積推進員2名の増員	
			3		コーディネーター担当者が増え、体制が強化されたと思う。 増員を図っている。 農地集積推進員が増員されている。	
	(2)県・市町・JAとの連携	3			連携対応積極的 一同に会議を持つなどの努力をしている。 「やまぐち農業経営支援センター」の構成員としてJAと連携	
			2		更なる連携強化を期待する。	
	(3)現地での調整		5		地域に密接なJAとのより積極的な連携を望む。 コロナ禍の中ではあるが、精力的に行われている。 現地話し合いへの積極的な参画	
				5		貸し手への情報は割と届いているような気がする。 効果のチェック常に検討 ラジオCMはよく聞く。 各種媒体等の活用
	(4)事業の啓発活動(農業者への周知活動)			5		農地を借りたいという気持ちはあるが、まだ行動を起こしていない人への対処状況がわかるとよい。 事業実績(4)マッチングの状況のとおり、借受希望登録経営体数が急増しているので、今後の対応が重要 約5割の経営体への貸し付け
				5		
	(5)公募に応じた者などの受け手ニーズへの対応			5		

評価値 A：適正である、順調である B：ほぼ適正である、ほぼ順調である C：取り組み強化、改善を要する

区分	評価項目	評価値			特記事項
		A	B	C	
2 事業実施方法	(6)「人・農地プラン」への関与等		5		有効活用の提案
	(7)基盤整備との関係	1			防府市奈美地区の事例に見られるように、基盤整備をきっかけとした農地の集積と貸付は、極めて効率的である。
			4		努力し良い結果を出した事例もあるようである。 農地集積の推進
	(8)新規就農者や企業への対応	2			賃料の支援は良い施策と思う。 県外企業の県内参入への支援は新たな良き事例であり、波及効果が期待できる。
			3		農地賃借料の助成は良いやり方であると思われるが、助成が終わった後の状況がわかるとよい。 将来最も大事な業務になると思われるが、今まだ充分とは言えない。 3経営体12haを貸し付け
(9)4年度に向けた推進体制・推進方法の改善		5		コーディネート担当者が増え、体制が強化されたと思う。 毎年推進体制には積極性がみられる。 増員も計画しているようである。 可能であれば、農地集積推進員の更なる増員を行うと良い。特に県東部市町 農地集積推進員の1名増員とさらなる増員	
	〔総合評価〕		5		コロナ禍でよくやっていると思う。受け手として、まだ行動をおこしていない若い人も対象とするなら、SNSの活用もあると思う。 農業・農地を取り巻く現状は年々厳しくなると予想される。山口県は中山間地域が多く、又、高齢化の比重が高い。部落から地域へ連合体をどう編成していくかが将来大きな問題となると思われる。今回特筆すべきは優良事例が2点報告されたことである。 山口県のような広い農地の少ない所でよく努力していると思う。 低迷していた集積実績に改善の兆しが認められる。 昨年に引き続き、適正な事業運営に努めた。

注 表中の「評価値 ABC」欄は、評価委員5名の評価状況を記載している。